

<p><b>★学校の教育目標</b> 健康でたくましい子供 ・美しいゆたかな心の子供 ・深く考えやりぬく子供 ・力を合わせて励み合う子供</p> <p><b>★目指す学校像（ビジョン）</b></p> <p><b>【目指す児童像】</b> ・自ら課題を設定し、自分で考え、判断し、行動して課題を解決する子供 ・自他の課題解決や、新たな挑戦と創造のために協働できる子供</p> <p><b>【目指す学校像】</b> すべての子供の活躍の舞台 日野第八小学校！</p> <p><b>【目指す教師像】</b> ・子供の理解に努め、認め励ましなが、子供と共に実践する教師 ・自らの資質向上に努め、子供の生きる力を育むことができる教師</p>	<p><b>★重点計画の概要</b></p> <p>プロジェクト名：「『子供たちがつくる学校』プロジェクト」          「子供たちが、自分たちの学校を自分たちの力でつくる」活動に取り組みを通して、これからの社会の中で自立して生きる力の基盤を育む。そのために、次の4点を基本方針とする。          ①「AAR（計画・実行・振り返り）サイクルを自ら回し続け、課題を解決する力」の育成          ②「仲間と協働に関わり、集団の中で自分を生かす力」の育成          ③「心身共に健康で、運動を通して自らの生活を豊かにする力」の育成          ④「自他の生命を大切に、多様な他者とよりよく生きる力」の育成</p>
--	---

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策
				評価点	取組指標	評価点	成果指標		
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	子供たちが、自分たちの学びを、自分たちでつくる授業の実施	生活科・総合的な学習の時間等の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域資源の活用により、多様な他者と関わり、多様な体験・実践を通して学ぶ授業を工夫し実践する。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	4	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>総合的な学習の時間における公園清掃や保育園での活動等を通じ、子供たちがやりがいや新たな気付きを得ている様子が伺える。小学校における地域との豊かな連携は、多様な体験を支える基盤であり、こうした活動が子供たちの自己肯定感につながっている。今後も、地域を基盤とした持続的な学習体制を構築し、教育活動の質を一層向上させる。</p>	
					3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。		
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								
活用できる力を身に付け、自ら学ぶ授業づくり	活用できる力を身に付け、自ら学ぶ授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>子供が主体的に学び、「課題解決に活用できる確かな力を身に付ける授業」を工夫し実践する。</li> <li>習得した力を生かし、子供が自らの学びを調整して取り組む「子供に委ねる授業」を工夫し実践する。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	3	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>教員の「子供の主体性を引き出す」とする授業改善への意欲が高い。こうした熱心な指導が、日々の学習における子供の確かな成長につながっている。一方で、保護者アンケートの回答率や情報発信の仕方には工夫の余地がある。学校のねらいをより直接的・具体的に伝える機会を設け、家庭との共通理解を一層深める必要がある。</p>		
				3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。			
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								
なかよしプレイタイムの充実・発展	子供たちが、自分たちの学校生活を、自分たちでつくる活動の実施	なかよしプレイタイムの充実・発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>第6学年をプレイリーダーとする異学年グループ「なかよし班」活動を、子供たちが自主的に企画・運営・改善して楽しむことができるようにする。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	2	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>なかよしプレイタイムの更なる充実には、中学年の役割の明確化が不可欠である。校内掲示等で役割を周知しつつ、ムードメーカーとしての中学年の活躍を教員が直接評価して伝えてほしい。こうした関わりを通じ、子供たちが活動の楽しさを実感し、全学年が互いのよさを認め合いながら交流を深める工夫を継続してほしい。</p>	
					3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。		
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								
ESDミーティング、ハキまつり、運動会、学習発表会などの学校行事やクラブ・委員会活動において、子供たちが自分たちのアイデアを生かして内容や活動を決定して取り組む機会を設定する。	子供発信の活動の積極的な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESDミーティング、ハキまつり、運動会、学習発表会などの学校行事やクラブ・委員会活動において、子供たちが自分たちのアイデアを生かして内容や活動を決定して取り組む機会を設定する。</li> <li>学級会等での話し合いによって、「レッツ・トライ」の趣旨に沿った活動を、子供たちがつくり出し、仲間と共に試行錯誤を繰り返しながら、やり遂げる機会を設定する。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	3	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>子供の「やりたい」という意欲を支える教員の熱心な姿勢や、思考を促す言葉掛け、掲示物の工夫が随所に見られる。子供たちが自分たちの力で活動をつくり出せるよう、個々の発想を大切に受け止めてほしい。話し合いの過程を共有するなど、一人一人が納得感をもって意思決定に関わることができる丁寧な支援を、今後も継続してほしい。</p>		
				3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。			
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								
つばめ学級及びステップ教室の運営体制の確立と指導の充実	つばめ学級及びステップ教室の運営体制の確立と指導の充実	つばめ学級及びステップ教室の運営体制の確立と指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>つばめ学級の子供たちが安心して過ごせる環境を、全教職員と専門家、関係機関とともに構築する。</li> <li>個々の状況を捉え、教科指導や自立活動を円滑に実施すると共に、常に指導を改善し、一人一人の子供に最適な指導を行う。</li> <li>チームの力を生かして、個々の状況に応じた指導を充実し、常に指導法や支援策の改善を行う。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	4	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>つばめ学級の開設は、工夫された教室環境のもとで非常に良いスタートを切っている。今後は通常の学級との交流及び共同学習の在り方について検討を進め、多様性を尊重する意識を全校で共有することが重要である。様々な課題を抱える子供たち一人一人を温かく包摂し、誰もが本来の力を発揮できる安心感のある環境作りを一層推進していく必要がある。</p>	
					3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。		
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								
関係機関との連携に基づく生活指導の充実	関係機関との連携に基づく生活指導の充実	関係機関との連携に基づく生活指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化している子供たちの心身の課題の解決について、教育、福祉、警察等の各機関と連携し、学校としての方針を明確にして対応し、状況の改善と解決に取り組む。</li> </ul>	4	4 具体的方策に教員の90%以上が取り組んだ。	2	4 90%以上の子供が、肯定的な評価をした。	<p>教員と子供の肯定的な評価に差がある現状を受け、アンケートの数字の裏にある子供の心理を深く考察する必要がある。直接対面して言葉を交わす効果を重視し、複数の大人が子供の小さな困り感を丁寧を受け止める体制を構築してほしい。こうした関わりを通じて、誰もが迷わずSOSを出せる確かな信頼関係を全校で築くことを期待する。</p>	
					3 具体的方策に教員の85%以上が取り組んだ。		3 85%以上の子供が、肯定的な評価をした。		
2 具体的方策に教員の80%以上が取り組んだ。	2 80%以上の子供が、肯定的な評価をした。								
1 具体的方策に取り組んだ教員が80%未満であった。	1 肯定的な評価をした子供が80%未満である。								

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。